



SSHレターズ

長崎県立大村高等学校
～自ら気づき、考え、行動する～

1巻/50号 2022/8/5

◆ SSH 科学研究・課題探究発表会 (シーハットおおむら メインアリーナで開催)

実施日： 7月21日(木) 午前 ポスター発表、午後 口頭発表、SSH成果報告会

目的： 理科部生徒が2年半取り組んできた科学研究、3年生数理探究科・普通科の生徒がSS探究の授業で約1年半取り組んできた課題探究の成果発表の機会とする。

参加者： 本校全生徒・職員、校外からは総勢約100名程度
(校外：運営指導委員の先生方、他校の県立学校の先生方、3年生の保護者、大村市内の中学生とその保護者)

午前中のポスター発表では、自身の研究成果を、下級生や外部の方々に自信をもって堂々と発表していました。午後からの口頭発表では、普通科文系、普通科理系、数理探究科、理科部から一班ずつが発表を行いました。どの班の発表も運営指導委員の先生方からお褒めの言葉を頂くとともに、今後の進展に期待を寄せていただきました。

コロナ禍ではありますが、全校生徒が一堂に会し、外部から多くの来場者をお招きしての開催が実現でき、発表した3年生や参観した1、2年生にとって大変貴重な1日になりました。



◆ SS探究 I ～連携講座～ ミニ課題研究を充実させよう！

日時：7月14日(木) 5・6・7校時 対象：1年生全員

実施方法：外部講師による9講座から1講座を選択して受講

※例年、年末に実施していた「繊維と染色の科学の講座」は、今回の連携講座に組み込んで実施した。

目的：(1)最先端の科学技術や身の回りの事象についての興味関心や問題発見力を高めること
(2)外部機関と連携し、テーマ設定や探究手法の基本を身につけること

1年生は、7月末から来年度の探究活動に向けた準備である「ミニ課題探究」に取りかかります。今回の連携講座で講師の先生方の熱のこもった講義に刺激を受け、「ミニ課題探究」が充実したものになることを期待します。



| | 講座 | 講師 |
|---|----------|--------------------------------|
| 1 | 人間・生命 | 九州大学共創学部 教授 菅 浩伸 氏 |
| 2 | 電気電子 | 長崎総合科学大学工学部 准教授 清山 浩司 氏 |
| 3 | 物質科学 | 熊本大学理学部 教授 吉朝 朗 氏 |
| 4 | 環境科学 | 長崎総合科学大学総合情報学部 教授 蒲原 新一 氏 |
| 5 | グローバルヘルス | 長崎大学熱帯医学研究所 名誉教授 一瀬 休生 氏 |
| 6 | 運動解析 | 熊本保健科学大学保健科学部 准教授 松原 誠仁 氏 |
| 7 | データサイエンス | 経済産業省九州経済産業局 普及活用支援調査員 島田 啓子 氏 |
| 8 | 食品科学 | 活水女子大学健康生活学部 准教授 池田 光春 氏 |
| 9 | 繊維と染色の科学 | 活水女子大学健康生活学部生活デザイン学科 講師 稲田 文 氏 |

◆ SS探究 II C ② 放射線セミナー

日時：7月1日(金) 午後

対象：2年生家政科 23名

講師：長崎大学原爆後障害医療研究所
松永 妃都美 氏

内容：講義：放射線に関する基本知識

実習：霧箱による放射線の観察、
校内様々な場所で放射線の測定

講義：原発事故や風評被害等について

実習と講義が織り交ぜられ、理解が促される内容でした。

また、現在の科学では、野菜が土壌から取り入れる放射線量が分かっており、科学的な知見から判断すれば、風評被害も防げるのではないかということなど、考えさせられる内容でした。



霧箱を観察している様子

◆ SS探究 II A ② 地学研修講座

日時：7月26日(火) 午後

対象：2年生数理探究科 26名

講師：九州大学共創学部 足立達朗 氏

内容：①地質や岩石の概説 ②プレートテクトニクスとそれに伴う地質現象 ③大陸の地質からわかること

②では、日本列島の成り立ちやマグマがどのようにできるか、などを知りました。③では、北アメリカ大陸の内陸部で10数億年もの前の古い地層が残されている“グランドキャニオン”の形成過程の話などがありました。実際に岩石も見せていただくなどして、生徒の興味・関心が大いに高まりました。

